住ノ變換等ヲナスハ治療上ノミナズ豫防上大ニ價値アル處ナリト信ズ。

本病治療(骨軟化症)ニ對シ唯一ノ良法トセラレタルフエーリング派ノ唱導ス卵巣抽出モ良法タルヤ勿論ナルモ之ヲ行フノ時間ハ顧慮スルノ必要ナキ能ハズ固ヨリ畸型進ミ病勢モ重クシテ緩和療治ヲ施ス可キ余地ナキモノニ向テハ直ニ施術シテ病苦ヲ忘レシムル可シト雖ドモ初期ニシテ尚ホ未ダ畸型少ク病症輕キモノニ向テハ婦人天賦ノ性ヲ滅スルコトナク先ヅ出來得可クンバ緩和的療法ヲ加ヘテ救助ノ道ヲ講ジ然ルモ尚ホ進行止マザル時ニ於キテ手術シテモ遲キニアラザル可ク之ヲ穩當ニアラント信ズルノ一人ナリ　(了)。

家兎ニ於ケル「ベンツオール」ト白血球トノ關係ヲ述ベテ血液疾患ノ「ベンツオール」療法ニ及ブ　(前承)

於宇津宮衛戍病院試驗室
高橋孝太郎述

以上述ベシ家兎ニ於ケル「ベンツオール」ノ作用ヲ人体ニ應用セシハ前述セシ如ク Koranyi 氏 Kyralyfi 氏及 Stein ノ諸氏ヲ以テ嚆矢トナス次ニ他ノ諸家ノ人ニ應用セシ數例ヲ轉載セン。

I Von Dr W. Neümann

患者ハ骨腿性白血病ニシテ脾ハ肥大シ右ノ鼠蹊腺部ニ達ス而シテ白血球數ハ治療ノ初期56000ヲ示セリ本患者ニ Koranyi 氏ニ基キ「オレーフ」油「ベンツオール」等分液一瓦ヲ謬竅ニ入レ最初一日二回ヨリ徐々ニ一日二個宛四回迄增量シソレヨリ再ビ減量的ニ應用セシニ第一回應用ニ於テ患者ハ惡寒戰慄ト高熱ヲ來セシガ爾后全ク障害ナシニ内服スルヲ得タリ然シテ本劑内服ニヨリ白血球ハ初期ノ增加ヲ呈スル事ナシニ持續的ニ急速ニ減少スルヲ得タリコレト同時ニ脾腫ハ著シク縮少シ一般狀態ハ良好ヲ呈シ治療日數三十六日ニシテ最終日ニハ白血球ハ5300ニ減少シ患者ハ自覺的ニ快復ヲ訴

フルニ至ル然シテ氏ハ Koranyi 氏ノ如ク「ベンツオール」ノ畜積后遺作用アルヲ實驗報告シヌ即チ本患者ハ爾后白血球ハ益々減少シ 1cmm 中僅ニ 200 個ヲ算スルニ至リ尚脾ハ縮少シ一般狀態不良トナリ時々發熱發作下痢脱力ノ狀及鼻出血等ヲ呈シ治療結了后三十九日ニシテ患者ハ遂ニ死去スルニ至ル。

解部的所見

脾ハ堅牢緻密トナリ縮少ヲ呈ス顯微鏡的所見ハ全ク、彼ノ骨髓性血病ニ見ルガ如キ所見ナク反ツテ Sellnigs 氏ノ「ベンツオール」中毒ニ因スル家兎ノ所見ニ類似セルヲ見ル故ニ本患者ハ最初ハ「ベンツオール」應用ニヨリ經過良好ナリシガ不幸ニシテ本劑應用過度ニヨリ「ベンツオール」中毒死ヲ來セルヲ知ルナリ。

結論

1、「ベンツオール」ハ白血病ニ對シ著効アル藥品ナルヲ信ズ。

2、本劑應用ニ就テハ吾人ハ大ナル注意ヲ要ス即チ「ベンツオール」ノ畜積后遺作用アル事ニ因リ中毒死ニ落ラシメザルヲ要ス。

3、本劑應用ニ就テハ白血球ノ減少ノ傾向ヲ呈スルヲ見バ既ニ本劑應用ヲ中止セザル可ラズ。

II Stein 氏

氏ハ骨髓性白血病ニ「ベンツオール」ヲ內服トシテ應用シ好結果ヲ得タル一例ヲ報告シテ曰ク

本劑ヲ四十二日間應用ナシ脾ノ縮少ト白血球ハ初メ 25.000 ナリシガ 9.000 ニ減少シ赤血球ハ 7.00000 ヲ增シ「ヘモクロビン」ハ 50% ヨリ 68% ニ增加ヲ呈セリト。

III Tedesco 氏

氏ハ淋巴性白血病ニ「ベンツオール」ト「オレーフ」油等分液ヲ皮下注射トシテ增量的ニ三瓦迄應用シ 120.000 ノ白血球ハ 11.000 ニ減少シ 975.000 ノ赤血球ハ 3770.000 ニ增加シ一般狀態ハ良好ヲ呈セリ。

IIII G. Klemperer. H. Hirschfeld 兩氏ハ本劑ヲ惡性貧血ニ應用セシ三例ヲ報告シテ曰ク本患者ハ「トリユーム」×.砒素療法等奏効ナカリシヲ以テ一日二回「ベンツオール」0.25 ヲ應用セシニ奏効アルヲ見タリ然シテ本劑一日量 0.5 瓦迄ハ應用スルモ臟器ニ壞疽ヲ呈スル事ナシ。

例一、

患者 H. K. 女中二十三歲小兒時猩紅熱及ビネツセル氏熱ヲ病ム十一歲ノ時頸部淋巴腺ノ手術ヲ行フ今ヨリ五年前關節「リオマチス」ヲ病ミ本年(1913)八月十六日迄

ハ異常ナカリシ然ルニ十七日ヨリ頭痛及脊髓ニ於ケル疼痛ヲ以テ發病ス十九日以來顏面蒼白發熱アリシヲ以テ就床醫師ノ治療ヲ受ク二十一日頃ヨリ諸候增惡セシヲ以テ入院ス。

現在、症患者ハ可ナリノ榮養狀態ナレド皮膚顏面著シク蒼白ニシテ苦痛ノ狀ヲ呈ス脉搏112至心濁音界ハ著シク左方ニ擴張シ心尖及ビ胸骨上ニ收縮期的雜音ヲ聽取ス腹部臟器神經系ニ異常ヲ見ス。

血液所見「ヘモクロビン」45%赤血球1300.000白血球5.000ヲ算シ巨大赤血球及ビ「ヘモクロビン」ノ赤血球減少ニ比シ含量大ニシテ、惡性貧血ノ定型性所見ヲ呈ス。

本患者ハ二十七日ヨリ本劑應用ヲ開始ス即チ「ベンツォール」0.5ト同量ノ「オレーフ」油等分液ヲ澪囊ニ入レ應用セシニ附表第七ノ示ス如ク結果良好ニシテ十月八日退院ノ二日前ニ於ケル血液所見ハ「ヘモクロビン」65%赤血球4200.000ヲ呈ス其后第三週及第六週ニ再ビ血液檢査ヲ行ヒシニ赤血球ハ4500.000ニ「ヘモクロビン」90%ヲ呈シ顯微鏡的所見ハ全ク尋常トナリ再ビ家業ニ從事スルヲ得タリ。

結論、

1、兩氏ハ定型性惡性貧血ニ於テ「ベンツォール」0.25ヲ毎日二回應用ナス時ハコレニテ奏効アルヲ信ズ

2、本劑モ決シテ「トリユーム」×砒素臟器製劑等ニ比シ遜色ナキヲ信ズ。

V. H. Hirschfeld 氏ハ昨年十一月號 Therapie der Gegenwart ニ於テ近來 Kiralyfi 氏ニヨリ「ベンツォール」ハ又赤血球ニ對シテモ一種ノ毒素ニシテ之ヲ赤血球增多症ニ應用ナシ奏効アルトノ說ニヨリ諸家ノ應用例ヲ報告シテ曰ク

a). Selling 氏ハ血液疾患ノ「ベンツォール」療法ニ於テ三例ノ重キ「ベンツォール」中毒ニ因スル重キ赤血球形成不全ニヨル貧血ヲ見タリト

b). Kiralyfi 氏ハ赤血球增多症ノ二例ニ之ヲ應用シテ曰ク

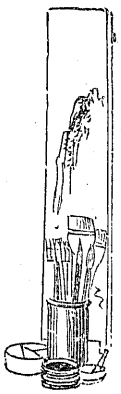
例一、患者ハ四十九歲ノ男子脾腫ヲ見ズ皮膚粘膜ハ發赤シ患者ハ自覺的ニ頭痛及ビ眩暈ヲ訴フ赤血球8700.000白血球5.600ヲ算ス。

本患者ニ四週間本劑ヲ應用シ最終ニハ毎日五瓦宛ヲ用フ、コレニヨリ赤血球ハ4810.000ニ減少シ應用中止后五週ニ於テ5170.000ヲ算ス尙三ケ月后ニ於ケル血液所見ハ全ク尋常ニ復セリ。

通信

例二、患者ハ二十二歳ノ男子約二年前ヨリ時々高度ノ鼻出血ヲ呈シ脱力衰弱シ頭痛眩暈ヲ訴フ血液所見赤血球6500.000白血球10.600本患者ニ「ベンツオール」三瓦ヲ内服セシメシニ十日后ニ於テ既ニ赤血球ハ5000.000ニ減少シ爾來患者ハ口ヨリノ内服ヲ忌ムヲ以テ直腸内ヨリ應用セシニ本劑應用后三週ニシテ赤血球ハ4700.000一ヶ月后ニ於テ4960.000ニ減少シ、患者ハ一般狀態恢復シ健康ヲ訴フルニ至ル。

結論以上二例ニ於テ見ル如ク、「ベンツォール」ハ又赤血球ニ對シ一種ノ毒素ニシテ殊ニ趣味アル事ハ本例ニ於テ本劑ガ白血球ニ作用セザリシ事ナリコノ關係タルヤ恐ラク本劑ガ最初ハ病的ニ增加セシ「エレメント」ニ作用スルニ因スルナラント　(終)



通信

鴻司療醫より三輪院長への通信

春風駘蕩し候院長殿御近狀如何被爲在候哉其後は自忙に取紛れ久敷御無音に打過居候段多罪此事に御座候降て小子引續無事當地在學仕居候間御放念願上候目下ハス先生ネアペルの動物研究所へ參られ居候爲め(御得意の網膜光感機能に關する研究)教室も休暇とは乍申些少の閑散に御座候次に千葉出身の松尾信夫、中川小四郎諸氏數日前來獨目下拙寓に同宿致居候前者は眼科後者は泌尿科志願に御座候先は御近況御伺迄(三月二十日)

宇田川軍醫より諸先生への通信

謹啓春暖之候と相成り候處母校益々御隆盛にして校長閣下始め恩師各位益々御清榮にて醫育に御盡瘁之段奉賀候扨當横須賀軍港に於ては未だ母校出身者の會合せし前例御座なく從て母校を偲ぶ術なきを遺憾とし何等か會合の方案につき既に先輩矢澤軍醫中監在港當時其期企有之候ひしも其機に到らざりしが今回在港の先輩窪庭軍醫少監及毛利醫師両氏の發議により愈々横須賀のはな會の實現を見るに至り候而して第一回を去る二月二十二日夜當市魚勝樓上に開會仕り候會するもの當市よりは開業醫毛利功氏湘南病院醫員蓼川稔　今井清九郎兩氏にして海軍よりは關東丸軍醫長窪庭俊象氏第十六驅逐隊軍醫長稲原廣氏海兵團附大軍醫柏崎治氏武藏軍醫長針谷赫次氏滿州軍醫長柳沼三吉氏及小官に御座候尚共濟會病院醫員木藤氏重砲兵聯隊附軍醫山上氏高千穗軍醫長德田壽太郎氏同乘組少軍醫齋藤武氏工廠附大軍醫鹿野孝氏の御